

アクセシビリティ対応入門

2024.04
senku



イントロダクション

アクセシビリティについてご存じですか？

「アクセシビリティ」という言葉を聞く機会も増えてきました。

皆様のなかには、

- 専門家
- 対応や検査を依頼されたことがある
- 検討したことはあるけれど対応したことはない
- 予算がないので無理
- 聞いたことくらいはある
- 良く知らない

など、様々なレベル感のかたがいらっしやるかと思います。

アクセシビリティ対応の目的

**障害の有無にかかわらず、誰であっても、
必要な情報にアクセスできるようにする**

ことが最大の目的です。

アクセシビリティ対応により、たとえばマウス操作が出来ずキーボードで閲覧する場合や、色覚多様性に該当するかたにも使いやすくなりますが、

通常の閲覧や操作になにも支障がない方にとっても、見やすく使いやすく、検索などでたどり着きやすく、わかりやすくなります。

検査の突破は主目的ではありません！

あくまでも、

「利用者のために見やすく使いやすいサイトを提供する」

ことが主目的です。

検査をただ突破するためだけ、要求されたから仕方なく、ではなく、

良い機会として、見やすく使いやすいウェブサイトを目指しましょう！

どちらが使いやすいでしょう？

例1：フォーム（メールアドレスの欄をフォーカス）

A

※見出しが赤い項目が必須です

氏名

メールアドレス

電話番号

B

※必須の項目はすべて入力が必要です

氏名 ※必須

必須項目です

メールアドレス ※必須

電話番号（ハイフン不要）

例2：テキストの読みやすさ

A

吾輩は猫である。名前はまだ無い。

どこで生れたかとうんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。しかしその当時は何という考もなかったから別段恐いとも思わなかった。ただ彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあったばかりである。

B

吾輩は猫である。名前はまだ無い。

どこで生れたかとうんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。しかしその当時は何という考もなかったから別段恐いとも思わなかった。ただ彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあったばかりである。

規格をみてみましょう

ウェブサイトのアクセシビリティの基準

世界的なアクセシビリティの基準である、WCAG (Web Content Accessibility Guidelines) があります。

2023年10月に2.2が勧告されました。

<https://www.w3.org/TR/WCAG22/>

日本は、WCAGの内容をもとにしたJIS規格である「JIS 8341-3」がありますが、JISのほうは2016年の内容になっているので、見直しがあるかもしれません。

JISのほうに見直しがあっても、WCAGの内容がベースなので、WCAGにあわせておくと今後見直しがあっても安心です。

原則は4つ

- 知覚可能
- 操作可能
- 理解可能
- 堅牢(robust)

こうしてみると、そうでなければ使えない、と思いますよね。

これらの原則を達成するために、ガイドラインがあり、ガイドラインごとに達成基準が定められています。

原則 > ガイドライン > 達成基準 > 達成方法

たとえば、1.知覚可能の原則の中の、ガイドライン 1.3は以下の内容です。

>ガイドライン 1.3: 情報、及び構造を損なうことなく、様々な方法 (例えば、よりシンプルなレイアウト) で提供できるようにコンテンツを制作すること。

1.3には6個の達成基準があります。

そのなかの1.3.1の基準には、

> 1.3.1 情報及び関係性: 何らかの形で提示されている情報、構造、及び関係性は、プログラムによる解釈が可能である、又はテキストで提供されている。(レベル A)

とありますが、この基準を達成するための方法は複数あります。

- htmlタグで文章などの意味付けをする
- フォントなどで表している情報を別の表現で示す
- 伝えたい情報はhtmlタグ、情報の見た目はCSSで作成する
- 着色によって意味付けする際に、htmlタグを使用する
- htmlタグを利用して表を作成する
- tableタグを利用する際にcaption要素を用いる
- 表の概要をsummary属性で説明する
- scope属性を利用して表を作成する
- フォームの要素に対して、labelやtitle属性を指定する
- htmlタグを利用してリストを作成する
- h1~h6タグを利用して見出しを作成する

レベルA、AA、AAA

達成基準にはレベルが3段階あります。

A: アクセシビリティに対応しているというためには最低限必要なレベルの内容

AA: Aに比べると高度な内容。日本でも行政関連のウェブサイトはAA準拠が求められているそうです。

AAA: かなり高度な内容で、すべて満たすことは推奨されていません。まずはAAをすべて満たして、可能なら項目を一部対応がよいでしょう。

原則 1 : 知覚可能

情報及びユーザインタフェース コンポーネントは、利用者が知覚できる方法で利用者に提示可能でなければならない。

例

1.2.6 手話 (収録済) : 同期したメディアに含まれているすべての収録済の音声コンテンツに対して、手話通訳が提供されている。(レベル AAA)

引用元 : <https://waic.jp/translations/WCAG20/Overview.html#media-equiv>

原則 2 : 操作可能

ユーザインタフェース コンポーネント及びナビゲーションは操作可能でなければならない。

例

2.1.1 キーボード: コンテンツのすべての機能は、個々のキーストロークに特定のタイミングを要することなく、キーボードインタフェースを通じて操作可能である。ただし、その根本的な機能が利用者の動作による始点から終点まで続く一連の軌跡に依存して実現されている場合は除く。(レベル A)

引用元 : <https://waic.jp/translations/WCAG20/Overview.html#operable>

原則 3 : 理解可能

情報及びユーザインタフェースの操作は理解可能でなければならない。

例

3.1.2 一部分の言語: コンテンツの一節、又は語句それぞれの自然言語がどの言語であるか、プログラムによる解釈が可能である。ただし、固有名詞、技術用語、言語が不明な語句、及びすぐ前後にあるテキストの言語の一部になっている単語又は語句は除く。(レベル AA)

引用元 : <https://waic.jp/translations/WCAG20/Overview.html#understandable>

原則 4 : 堅牢 (robust)

コンテンツは、支援技術を含む様々なユーザエージェントが確実に解釈できるように十分に堅牢 (robust) でなければならない。

例

4.1.1 構文解析：マークアップ言語を用いて実装されているコンテンツにおいては、要素には完全な開始タグ及び終了タグがあり、要素は仕様に準じて入れ子になっていて、要素には重複した属性がなく、どの ID も一意的である。ただし、仕様で認められているものを除く。(レベル A)

引用元：<https://waic.jp/translations/WCAG20/Overview.html#robust>

基準と達成方法の例

imgタグにはaltを入れる

ガイドライン 1.1 テキストによる代替: すべての非テキストコンテンツには、拡大印刷、点字、音声、シンボル、平易な言葉などの利用者が必要とする形式に変換できるように、テキストによる代替を提供すること。

の達成基準1.1.1の達成方法のひとつ。

<https://waic.jp/translations/WCAG-TECHS/H37.html>

スペーサーなどの画像については、そこに入っていると読み上げブラウザなどで表現されると邪魔にしかならないので、

```
role="presentation"
```

の属性を指定すると、意味が無くあくまでも見た目上使っている画像であると示せません。(WAI-ARIAでの対応の一環です。興味がある方は調べてみてください。)

コントラスト比の確保

ガイドライン 1.4: コンテンツを、利用者にとって見やすく、聞きやすいものにする。これには、前景と背景を区別することも含む。

の達成基準1.4.3 (最低限、AA)、または1.4.6(高度、AAA)

最低限 (AA) :

小さい文字では少なくとも 4.5:1 のコントラスト比

サイズの大きなテキスト及びサイズの大きな文字画像に、少なくとも 3:1 のコントラスト比

※18 ポイントのテキスト又は太字で 14 ポイント以下かどうか。ピクセル換算すると、24pxか約18.5pxの太字

高度 (AAA) :

小さい文字では少なくとも7:1のコントラスト比

サイズの大きなテキスト及びサイズの大きな文字画像には、少なくとも 4.5:1 のコントラスト比

コントラスト比の例

パターンA

4.14:1 小さい文字は不可。大きい文字のみなら AA。AAAだと不合格。

パターンB

7.8:1 AAAの基準でも合格。

パターンC

2.17:1 大きい文字にも使用できない。

AAを達成したいとき、この枠の色の組み合わせは使えるでしょうか？

テキストカラー: #FFFFFF、背景色: #009EFF

コントラスト比の確保には例外も！

付随的: テキスト又は文字画像において、次の場合はコントラストの要件はない。アクティブではないユーザインタフェース コンポーネントの一部である、純粋な装飾である、誰も視覚的に確認できない、又は重要な他の視覚的なコンテンツを含む写真の一部分である。

ロゴタイプ: ロゴ又はブランド名の一部である文字には、最低限のコントラストの要件はない

例1: フォームに未入力の項目があってクリックできない送信ボタン



例2: ただの飾りのテキスト

Message

この資料をお読みいただきありがとうございます！

色だけで表現しない

ガイドライン 1.4: コンテンツを、利用者にとって見やすく、聞きやすいものにする。これには、前景と背景を区別することも含む。

の達成基準1.4.1

色の使用: 色が、情報を伝える、動作を示す、反応を促す、又は視覚的な要素を判別するための唯一の視覚的手段になっていない。(レベル A)

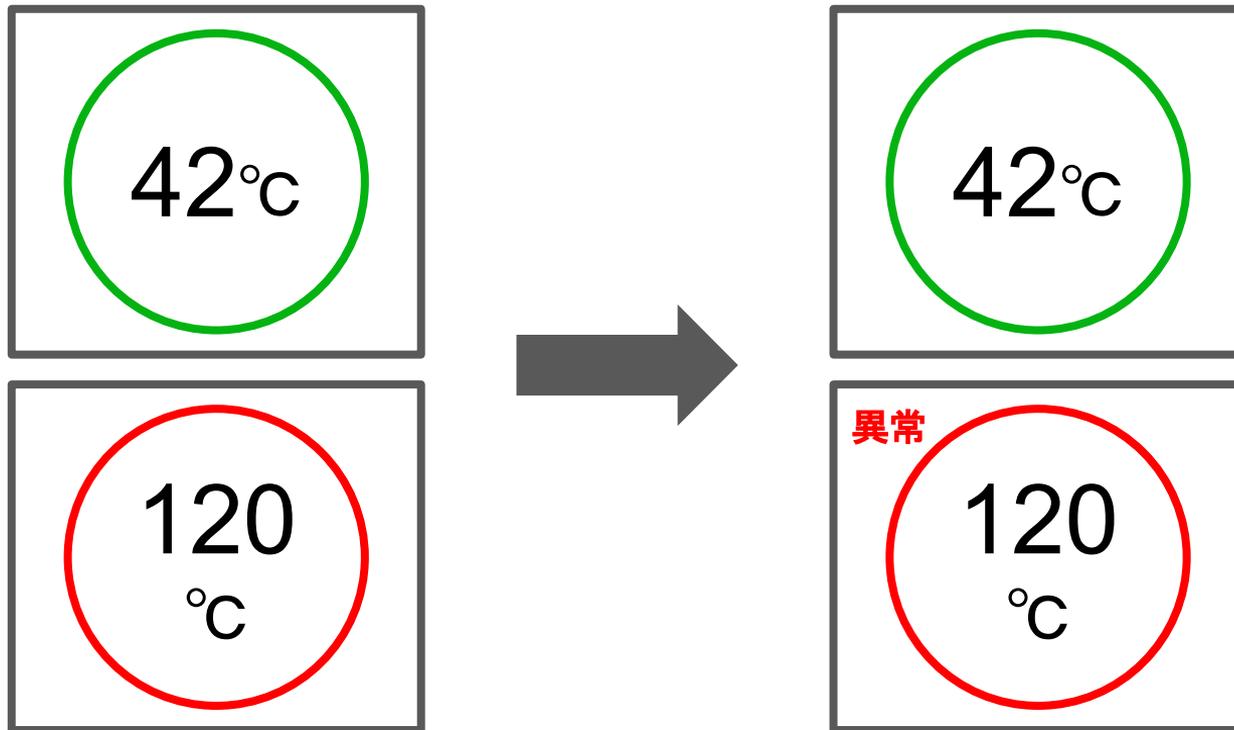
状況 A: 特定の語句、背景、又は他のコンテンツの色を用いて情報を示している場合:

1. G14: 色の違いで伝えている情報をテキストでも入手可能にする
2. G205: 色のついたフォームコントロールのラベルに対して、テキストによる手がかりを含める
3. G182: 文字色の違いが情報を伝えるために使用される場合に、利用可能な追加の視覚的な手がかりを確保する
4. G183: 色が単独でリンク又はコントロールを特定する場所で、周囲のテキストと一緒に 3:1 のコントラスト比を使用し、そのリンク又はコントロールのフォーカスに追加の視覚的な手がかりを提供する

状況 B: 情報を伝える画像の中で色を用いている場合:

1. G111: 色とパターンを併用する
2. G14: 色の違いで伝えている情報をテキストでも入手可能にする

色だけで表現しない例



動きがあるコンテンツは一時停止可能

ガイドライン 2.2: 利用者がコンテンツを読み、使用するために十分な時間を提供すること。

の達成基準2.2.2

一時停止、停止、非表示: 動きのある、点滅している、スクロールする、又は自動更新する情報は、次のすべての事項を満たしている: (レベル A)

- 動き、点滅、スクロール: 動きのある、点滅している、又はスクロールしている情報が、(1) 自動的に開始し、(2) 5秒よりも長く継続し、かつ、(3) その他のコンテンツと並行して提示される場合、利用者がそれらを一時停止、停止、又は非表示にすることのできるメカニズムがある。ただし、その動き、点滅、又はスクロールが必要不可欠な動作の一部である場合は除く。
- 自動更新: 自動更新する情報が、(1) 自動的に開始し、(2) その他のコンテンツと並行して提示される場合、利用者がそれを一時停止、停止、もしくは非表示にする、又はその更新頻度を調整することのできるメカニズムがある。ただし、その自動更新が必要不可欠な動作の一部である場合は除く。

一時停止可能にする例



サイトタイトル

メニュー1

メニュー2

メニュー3

メニュー4

時間が経つと次の画像に切り替わる

||

1

2

3

テキストテキストテキストテキストテキストテキストテキストテキスト

自動で検査できるもの、手動で検査するもの

自動で判定できるか、手動で判定するか

1.1.1 非テキストコンテンツ: 利用者に提示されるすべての非テキストコンテンツには、同等の目的を果たすテキストによる代替が提供されている。ただし、次の場合は除く: (レベル A)

1.1.1 の対応方法のうち一部だけでも、以下のように数多くありますが、この中にも、検査の時に、自動で判定できるもの、一部自動で判定できるもの、手動で判定しないとイケないものがあります。

- img要素をalt属性で説明をしているか
- 代替テキストが記述されているか
- 一緒に並んでいる画像とテキストは同じリンク先を示すか
- テキストを使用して、リンクの目的を説明しているか
- 画像のグループを代表する画像に説明文を付けているか
- 非テキストコンテンツの長い説明文があるか
- ボタンとして利用されている画像が意味するものを alt属性で説明しているか
- フォームの要素に対して、labelやtitle属性が指定されているか
- 動画または音声をテキストで説明しているか
- 音声ブラウザなどが無視すべきimg要素への対応をしているか
- 装飾的な画像はCSSで指定しているか

分類してみると

自動判定可能

(Auto Check)

- img要素をalt属性で説明をしているか
- テキストを使用して、リンクの目的を説明しているか
- ボタンとして利用されている画像が意味するものをalt属性で説明しているか

自動で洗い出し可能

(Auto Find)

- 代替テキストが記述されているか
- 一緒に並んでいる画像とテキストは同じリンク先を示すか
- フォームの要素に対して、labelやtitle属性が指定されているか
- 音声ブラウザなどが無視すべきimg要素への対応をしているか

手動対応

(Human Check)

- 画像のグループを代表する画像に説明文を付けているか
- 非テキストコンテンツの長い説明文があるか
- 動画または音声をテキストで説明しているか
- 装飾的な画像はCSSで指定しているか

何から着手するか

まずはここから

- **時間と予算を確保する**
- **すでに対象サイトがある場合は、検査を依頼する前に、抜本的な対応が必要かどうかのアタリをつける**
 - 代表的なページや機能があるページをLighthouseで見ても、自動で判定できる範囲は結構わかります
 - ほぼリニューアルしないと厳しそうなら、検査よりもリニューアルが先です
- **構築がこれからなら、対応する範囲を定義する**
 - AAの何パーセント、というだけでなく、どの項目、というところまで
- **デザインガイドラインやコーディングガイドラインを作成し、特段注意を払わなくても、多くの項目は自然に達成できるようにするとベスト**

最後に

「主語が利用者」の前提があります

情報を発信したい、や、問い合わせを受けたい、など、
ウェブサイトにはおのあの目的があることと思いますが、
すべて、

「**利用者が**、適切な情報を受け取れる状態」

「**利用者が**、問題なく操作できる状態」

が前提です。

扱う情報や商品そのものに魅力があっても、使えなければ使ってもらえません。
主観では気づきにくい使いづらさに気づくヒントとして活用していきましょう！

お問い合わせ

お問い合わせ先

ウェブサイト構築、ウェブを活用したシステムの開発、サイトのセキュリティ対策のほか、Google広告・SNS広告の運用、ウェブサイト更新代行、サーバー・ドメインの管理など、ウェブの活用について幅広くご相談いただけます。お気軽にご連絡ください。

お電話でのお問い合わせ

042-659-2960

※平日10:00~17:00

フォームからのお問い合わせ

[お問い合わせフォーム](#)

※24時間いつでもお送りいただけますが、先駆からの返信にはお時間をいただく場合があります。